

湯浅の柑橘栽培と段々畑の広がる風景

全国で愛される紀州のみかん

江戸時代のみかんは、紀州みかんと呼ばれる種のある品種でした。房ごとに種があることが子孫繁栄に繋がって江戸を中心に重宝されたと言います。勝楽寺境内には、紀伊国屋文左衛門を顕彰する石碑があります。明治に入ると、今度は食べやすい種のない温州みかんが主流となっていきます。

段々畑が描く文化的景観

湯浅町内には、山の斜面を利用し、石を積み上げて畑を作った段々畑が多くあります。平地が少ないという制約もありますが、太陽を浴び、排水性・保湿性に優れている段々畑は、高品質のみかんを育て、さらには独特な文化的景観を構成しています。

三宝柑

枝付きの部分が高く盛り上がり、底にくびれのある見た目で、さわやかな甘さの三宝柑は、湯浅町の特産のひとつです。紀州の殿様に献上される際に、神様へのお供え物を乗せる三方さんぼうに乗せられたことからこの名がついたそうです。



柑橘畑の景観



三宝柑



紀伊国屋文左衛門之碑